

2010年度

科目名	演習Ⅱ		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文4	コード	12150
開期	通年	講時	月曜日2限
		単位数	4
授業テーマ	戯作の翻字と注釈。		
目的と概要	本学図書館が大量に所蔵する近世文学のマイクロフィルムの中から、未翻刻(必ず)の黄表紙・合巻を選び出して翻字し、適宜漢字を宛てて、注釈を施す。		
成績評価法	翻字・注釈の完成度(70%)、平常点(30%)。他の受講生の発表にも積極的に参加すること。		
テキスト	本学所蔵のマイクロフィルムを各自プリントアウトして用いる(1枚10円)。		
参考書	授業中、随時紹介する。江戸語の辞典／前田勇／講談社学術文庫 は注釈の必需品、くずし字用例辞典／児玉幸多／東京堂出版 は翻字の強い味方。		
履修に当たっての注意・助言	黄表紙を始めとする戯作をできるだけ多く読んで江戸語を知ることが、実は正しく翻字することにつながる。そのことに早く気付いて欲しい。		
講義計画			
第1回	昨年度『江戸生艶気樺焼』を読み終えられなかったので、その続き。		
第2回	続き。読了。		
第3回	各自、翻刻作品の選択とコピー(於図書館マイクロフィルム室)。		
第4回	もう一度。2作品選ぶことが望ましい。		
第5回	卒業研究作成に必要な工具書類を紹介する(於図書館)。		
第6回	受講生による翻字の発表。たたき台は1名で作るが、全員で修正し、正しいものに近付ける。		
第7回	続き。		
第8回	続き。		
第9回	続き。翻字の終わった作品には直ちに漢字を宛ててゆく。これは翻字作業と並行して行う。		
第10回	続き。		
第11回	続き。		
第12回	続き。		
第13回	続き。		
第14回	続き。		
第15回	続き。		
第16回	漢字を宛て終わった作品に、それぞれ担当者を決めて注釈を加えてゆく。出来上がった注釈は全員の前で披露し、注の修正・追加等の指摘を受ける。		
第17回	続き。		
第18回	続き。		
第19回	続き。		
第20回	続き。		
第21回	続き。		
第22回	続き。		
第23回	続き。		
第24回	続き。		
第25回	続き。		
第26回	受講生の進捗状況に合わせて個人指導を行う。ただし、高橋の個人研究室ではなく、これまで同様教室で行う。		
第27回	続き。		
第28回	続き。		
第29回	全員の翻字・注釈の総括。合評。		
第30回	続き。		